

第2回県立病院機能のあり方検討会（議事概要）

1 会議名称

県立病院機能のあり方検討会

2 開催日時

令和7年8月1日（金）17時30分から19時00分

3 場所

神奈川県庁新庁舎第5会議室（オンライン併用）

4 出席者

【委員】

氏 名	職 等
井上 貴裕	千葉大学医学部附属病院 副病院長／ 病院経営管理学研究センター長
小松 幹一郎	公益社団法人神奈川県医師会 理事
伏見 清秀（座長）	東京科学大学大学院医歯学総合研究科 教授
本館 教子	公益社団法人神奈川県看護協会 会長
吉田 勝明	公益社団法人神奈川県病院協会 会長

【オブザーバー】

氏 名	職 等
阿南 英明	地方独立行政法人神奈川県立病院機構 理事長
竹澤 智湖	横浜市医療局健康安全部 医務担当部長
田口 真希	横浜市医療局地域医療部 地域医療課長

5 会議の議題

- (1) 県立5病院の機能及び機能に応じた体制について（循環器呼吸器病センター）
- (2) その他

6 会議の結果（概要）

県から、循環器呼吸器病センターの現状について説明の上、同センターが高度専門病院としての機能に適合しているか、及び県立病院として引き続き担うべき医療は何かについて、委員から意見を伺った。

(1) 高度専門病院としての機能

＜委員からの主な意見＞

- ・ 循環器分野については、難易度の高い手術がそれほど多くないなど、特徴のある、高度専門的な医療を提供しているとはいいがたいのではないかと。
- ・ 近隣には循環器分野や一般的な呼吸器分野を多く受け入れている医療機関が複数あり、周辺の医療機関でカバーが可能
- ・ 呼吸器分野については、間質性肺炎などの難治性呼吸器疾患において、非常に専門性の高い医療を積極的に提供している。
- ・ 肺がんは県立がんセンターでも積極的に行っている。
- ・ 間質性肺炎等は治療法も限られており、そうした疾患をしっかり診てもらいたい。
- ・ 結核病床の稼働率が低い、他の病院も同様の傾向。60床という規模は大きいのではないかと。ただし、県全体で一定の病床数を確保する必要があると思う。
- ・ 高齢化が進む状況においては、一部の診療分野に特化した専門医療を継続していくのも難しいのではないかと。

(2) 県立病院として引き続き担うべき医療は何か

＜委員からの主な意見＞

- ・ センターが最も得意としているのは、間質性肺炎等の難治性呼吸器疾患と結核ではないかと。
- ・ 難治性の呼吸器疾患については、肺がんと併発した場合の対応が困難であり、例えば、がんセンターで両方を診られれば効率がよく、県民サービスの充実にもつながるのではないかと。医師への効果的な教育という点でも期待できる。
- ・ 施設の老朽化が進んでいることを踏まえると、必要な機能は残しつつも、病院の形については様々考えられるのではないかと。高度で専門的な医療を担ってきた部分をきちんと維持していくことを前提とした上で、何らかの形で変わっていく必要があることは共通認識だと思う。

(3) 意見を踏まえた今後の対応

第5回以降の議論（「全体の最適化と連携」）に反映する。

7 次回の開催

令和7年9月上旬